

次第

- 令和6年度 第1回 地球温暖化対策推進委員会 分科会 -

日時：令和6年7月23日（火）14：30～

場所：富士見町役場 3階会議室

【第2部】

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 分科会設立の背景及び目的の説明
4. 協議事例紹介
5. 分科会（以下、分科会ごとに協議）
 - （1）自己紹介（各テーマ毎）
 - （2）グループディスカッション
 - ・ テーマ出し
 - ・ 目標設定
 - ・ 次回分科会開催時期の調整
 - （3）主査・副主査選任
6. 各分科会ごと閉会



議事録

○要旨（施策アイデア等）

- ・開発が進む薄型フィルムの太陽光発電をビニールハウスに積極採用。
- ・カーボンダッシュボードの簡易版製作、利用事業者のモニタリングの実施。
- ・省エネ診断を産業振興センターが提供する安全衛生点検パッケージに追加。
- ・電力の地産地消を地域新電力設立によって実現。

○農業分野について

- ・ビニール温室については、ヒートポンプの活用エネルギーを太陽光発電で賄える形が理想。
- ・ビニールハウスへの太陽光発電設置は、現在開発が進んでいる薄いフィルム型の太陽光発電を取り入れられれば、設置可能容量を増やすことが可能。ただし、費用も相応にかかるため、農業分野における太陽光導入補助金枠も創設してほしい。

○カーボンダッシュボードの使用率向上のためには

- ・産業振興センターからカーボンダッシュボード使用を依頼されているが、なかなか事業者における活用率が上がっていない。要因としては、入力項目が細かく、多すぎる点がある。さらに、省エネを進めるにあたって売上対比のエネルギーコストがどれくらいかの判断が難しい。
- ・カゴメの場合は、ジュース1kgあたりのエネルギーコストを表す取り組みをしている。
- ・事業者にとって記入が簡単で、取り組みを続けられる簡易版を製作することはどうか。
- ・CO2排出量可視化も大事だが、自社のエネルギー費用として考えていければ、経営コストとして重要となるので事業者としても継続してウォッチできるのではないか。
- ・カーボンダッシュボードの利用状況について、使用感などを把握するため10社ほどを対象に継続的にモニタリングすることはどうか。

○省エネ診断を行える人材の募集・確保について

- ・エプソンOBでエネルギーに詳しい方にボランティア的にお願いできないか。⇒OBネットワークなし

議事録

- ・産業振興センターが提供している安全衛生管理に絡めて、電気設備や消防設備のパトロールを実施するパッケージがある。このパッケージに省エネ推進（診断）も加えることはどうか。

○地域新電力について

- ・電気の地産地消のために、隣町と連携しながら地域新電力を運営していくことはどうか。
- ・地域新電力があれば、域内でのエネルギー代金循環が可能となる。
- ・電力の卸市場価格も現在は落ち着きを見せているため黒字経営も可能。
- ・現在FITで運営している町の発電所もFIT切れ後に集約できる体制をとれば良い。

○コーポレートPPA等について

- ・ある程度の需要や発電規模がないと採算性がとれず、PPA事業が成立しない。
- ・需要量が小さいときに、他の需要地へ融通できる地域新電力の小売り事業者がいれば、PPA事業も成立する可能性が出てくる。
- ・降雪時には、全く発電しなくなってしまう点は留意しないといけない。
- ・カゴメ工場では1100kWと250kWの太陽光発電設備を設置済み。さらに2000kW規模の蓄電地を設置工事中。

○事業者におけるエネルギー使用のチェック

- ・エネルギー使用状態を調べると、想定以上に無駄使いしてしまっていることを周知することが必要。
- ・断熱材を入れることの削減効果は大きい。サッシを入れるぐらいいでもエネルギーコスト面で違いは出ると思う。そういった断熱改修にも補助金の枠を創設することはどうか。

○次回に向けたTodo等

- ・次回は9月に開催予定。
- ・本日の議論はeIDesignにて整理し、共有。
- ・次回までにアイデアや施策案などがあれば、それぞれ役場の事務局へ伝達。

